

日常における他者志向的な嘘に対する評価

田 口 恵 也

嘘は「相手に誤解を生じさせるべく意図的に伝えられる虚偽の発言 (DePaulo, Lindsay, Malone, Muhlenbruck, Charlton, & Cooper, 2003)」と定義されており、人々の日常生活において頻繁に用いられている。嘘をつくことは、自分自身の目的の達成や円滑な人間関係の維持のために役立つコミュニケーション方略の一つであると考えられている。嘘の中でも、他者に利益を与える嘘は「他者志向的な嘘」とよばれ、先行研究によって、自己の利益を求めるための嘘である自己志向的な嘘と比べて肯定的に評価されることが明らかにされてきた。しかし、先行研究では、どのようなタイプの他者志向的な嘘が人々から許容されるのかについては十分に検討されていない。そこで、本研究では2つの研究を通して、様々なタイプの他者志向的な嘘が日常生活の中でどのように評価されているのかについて検討した。

まず、研究1では、他者志向的な嘘を、偽りの情報を表出する偽装 (利他的な嘘) と特定の情報を表出しない隠蔽 (否定的なフィードバックの抑制) の2つに分け、他者に不利益を与える真実も含めた3種類の発言に対する評価の比較を行った。その結果、利他的な嘘は否定的なフィードバックの抑制や他者に不利益を与える真実より道徳的で許容できると評価されることが示された。次に、研究2では、利他的な嘘を自己利益の有無によって、自己利益を含まない利他的な嘘 (自己犠牲的な嘘) と自己利益を含む利他的な嘘 (相互利益的な嘘) の2つに分け、他者に不利益を与える真実も含めた3種類の発言に対する評価の比較を行った。その結果、他者に不利益を与える真実、自己犠牲的な嘘、相互利益的な嘘の順に道徳性、許容度、信頼性が高く評価されることが示された。また、自己犠牲的な嘘、他者に不利益を与える真実、相互利益的な嘘の順に好意度を高く評価されることが示された。

本研究から、どのようなタイプの他者志向的な嘘が人々により許容されるかについての新たな知見が得られた。まず、研究1から、他者のための偽装 (利他的な嘘) は、他者のための隠蔽 (否定的なフィードバックの抑制) より人々に許容されることが明らかになった。ここから、他者のために嘘をつく際には、発言を抑制し、曖昧にするより明確に事実とは異なる情報を表出する方が人々から許容されることが示唆された。また、研究2から、利他的な嘘の中でも、自己犠牲的な嘘は、人々から許容される上に、そのような嘘をつく人と仲良くなりたいと判断されることが明らかになった。ここから、自分の利益を顧みず他者のために嘘をつく人は、他者から好まれやすい可能性が示唆された。これらの知見は、他者志向的な嘘が、円滑な人間関係の維持と促進にどのように役立つのかを明らかにする手掛かりとなると考えられる。